

B01a 「あかり」による太陽系天体の観測

上野 宗孝 (東京大学)、石黒 正晃、J.H. Pyo、S.S. Hong (ソウル大 学校)、長谷川直、白井 文彦 (ISAS/JAXA)、大坪 貴文 (名古屋大学)、S.M. Kwon (カンウォン大 学校)、木下大輔 (台湾國立中央大学)、猿楽祐樹 (東京大学)、河北秀世 (京都産業大学)、向井 正 (神戸大学)、「あかり」SOSOS チーム

「あかり」による太陽系天体の観測プログラム (Mission Program : SOSOS) について報告する。SOSOS プログラムによる観測は、太陽系内の惑星間空間に分布する惑星間塵の起源に関する観測的研究、太陽系内の準惑星、小惑星、彗星などの個別天体の観測的研究を含んでいる。太陽系内に分布する惑星間塵の観測は、赤外線天文観測衛星 IRAS により大きな進歩を見た。「あかり」に搭載された近中間赤外線カメラ (IRC) による全天サーベイ/スロー スキャン観測では、IRAS と比較して 1 桁以上高い空間分解能を持ち、黄道放射中の微細構造に踏み込む事が可能である。また同観測装置を用いて、黄道光・黄道光放射の分光観測もおこなった。観測領域は黄道面から黄極方向まで幅広い黄緯に渡っており、太陽系内での惑星間塵の空間分布と材料物質の依存性を調べており、現在は黄道面と黄緯 10 度の小惑星族ダスト・バンド付近の解析を進めている。

小惑星観測では、広い波長範囲で小惑星からの熱放射を調べる事により小惑星天体の熱モデルの構築を目指している。これは「あかり」の感度校正を行う上でも重要なデータとなっている。

本講演では、これらの観測及びデータ解析状況及び初期解析結果を報告する。